

1 学校教育目標

- ・よく考え進んで実行する子
- ・なかよく助け合う子
- ・心も体もきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら学び、自ら考え、学ぶ意欲を育成する学校 ・心と体の健康づくりを進め、豊かな人間関係を育成する学校 ・特色ある学校づくり、開かれた学校づくりを進める学校 ・児童、保護者、地域と共に学び、信頼し合う学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、考え、判断し、問題を解決しようとする児童 ・素直で明るく、優しく、進んで挨拶ができる児童 ・お互いに、心を耕し、体を鍛え、高め合う児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の心が分かり、熱意と使命感のある教師 ・どの子も分かる喜びをもてる授業をつくり、自らも学び続ける教師 ・組織人としての自覚をもち、主体的に学校運営に参画する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 学校…児童一人一人の学力向上を重視し、基礎的基本的な学習内容の定着が図られているものの、読解力や表現力に課題が多い。特色ある教育活動として、伝統的文化活動を積極的に進めている。
- 児童…明るく素直で運動する児童が多く、地域・P T A行事にも意欲的に参加している。自ら考え、主体的に取り組む姿勢や他者と協働する態度などについては課題がある。
- 教師…若手教員が多いものの、日々の教育活動に熱心に取り組み、授業改善を図っている。主幹・主任教諭による校内O J Tを充実させるとともに、毎月の研修を通して、指導力の向上を図っている。
- 地域・保護者…学校創立118年目の長い伝統とともに、日々地域の力に支えられている。家庭と連携を図り、基本的生活習慣の定着に努めている。また、P T A活動も活発であり、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、ボランティアなど学校への理解が厚く、協力的である。

【成果と課題】

- 学力向上…学力向上委員会を中心に、全校で基礎学力の向上に邁進した。その結果、当初の区学力調査結果の数値が1月の再実施では、国語・算数ともに平均通過率94.7%と目標を上回った。とりわけ課題であった5年国語は96.8%、6年算数は90.4%と改善された。さらに本年度（H30年度）の区学力調査では通過率が区平均より2.0%上昇し成果が上がっている。今後の課題は、基礎的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導の充実。また、日本の伝統文化に触れる活動、地域学習等の体験的活動を一層推進するなど、児童が主体的に学んでいく学習を目指していく。
- 健康な心身の育成…挨拶を重視して、温かな人間関係を育てた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、些細なことからのトラブルもあり、思いやりの心をさらに育てたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には、全校で共通理解を図りながら組織的に対応した。運動好きの児童が多く、年間を通じた体育的活動や区のスポーツ大会での活躍も見られたが、体力テストの結果は、男子は向上したものの、女子は全校的に低い。運動経験の二極化や男女の遊びの形態の違い等に対応した日常的な運動の場づくりが必要である。
- 家庭・地域との連携…P T Aや開かれた学校づくり協議会の行事も活発に行われ、教員も積極的に協力できた。地域との連携を深めることができた。地域内の幼稚園・保育園とも、積極的な交流を行うこともできた。今後の課題は、キャリア教育推進のために、地域の方のお話を伺ったり、学年に応じた地域学習を行ったりしていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	健康な心身の育成	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
全校で、基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた授業改善と、学力向上に関する取組を計画的に行う。		目標通過率は区全体平均にプラス1% 年度末は4月本調査の結果にプラス5%		2教科平均 75.4%で区平均よりマイナス5.2% 年度末は、4月調査の結果よりプラス14.5%になった。		サマースクールや放課後補習教室で確実に個別指導を積み重ねてきた成果が表れた。各単元で結果が表れ、児童の自己肯定感も高まっている。「○○は完璧です。」等の声有り 今後も継続して指導を重ねていく。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
改善	パワーアップタイム	全児童 漢字・計算・音読・ 作文・読書	毎週火 (計算・音読) 毎週水 (読書) 毎週木 (漢字・音読) 毎週金 (作文・音読) 始業前 15分	【指導者体制】 担任 【取組のねらい・目的】 読み・書き・計算を身に付ける。 【使用教材】 漢字、計算等のプリント学習、音読、読書、短作文。 丸付けはその都度、内容によって一斉・個別と変わるが、回収、担任による確認を経て当日中に返却する。 【改善点】 漢字・計算・音読・作文に絞り、確実に実施できるよう、時程を変更した。	長期休業前に漢字・計算のミニテストを実施し、全員80%以上の正答率	1年のみ6月から。2年以上は、4月から各担任が100パーセント実施する。	・取り組みについては、100%実施できた。 ・ミニテストの結果については、2年生の国語が76%、3年生算数が78%の正答率だったが、それ以外は、84%から90%の正答率になった。	各クラスとも真剣に取り組んでいるが、学校全体の決まり(毎週火(計算・音読)等)を遵守できなかつたり、学年で教材がそろっていなかつたりと、計画的に進めることができない学年があつた。意図的・計画的に取り組めるようにする。	△

改善	放課後補習教室 (けやき教室)	課題のある児童 週に応じて対象児童を変える	火・金・の週2回設定	<p>【指導者体制】 担任+専科+COM 教員</p> <p>【取組のねらい・目的】 学力に課題のある児童の補習を行う。</p> <p>【使用教材】 次へのステップ、ベーシックドリル、タマ ROM「学習プリント」</p> <p>【改善点】 SP 表分析により、つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別指導で学力に課題のある児童の補習を行う。</p>	1 回 20 分以上 ×年間 70 回以上	1 月までに実施する定着度確認テストで正答率 30%未満の児童の正答率を 50%に引き上げる。その他の児童は 90%以上。	年間 4 2 回の実施にとどまった。しかし、その 4 2 回は、事前に保護者に手紙を配布し、確実に実施した。定着度確認テストで正答率 30%未満の児童はいなかった。その他の児童は、学習後は全員 90%以上の正答率になった。	個々の課題に特化した補習のため、成果があった。また、全校体制で取り組むことができたことは大きな成果である。年度途中、6 月からのスタートになったので、来年度は 4 月から計画的に実施していく。	○
継続	サマースクール	全学年 国語・算数 各学年約 10 名程度	夏休み期間中の 10 日 各日 50 分	<p>【指導者体制】 担任+専科+中学生学習ボランティア</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 担任、専科による少人数指導のもと、進める。前学年、前々学年等、既習事項のつまずきを漢字プリントやベーシックドリルで確認し、書けなかった漢字、解けなかった問題の直しや、日々の授業内容で理解が完全でない(単元テストの正答率が低い)内容の補充問題を行い、苦手意識の早期解消を狙う。</p> <p>【使用教材】プリント教材</p>	夏休み終了後、確認テストの実施	夏休み終了後の確認テストで全員の正答率の 10%アップ	2 年は 15. 3% 3 年は 10. 0% 4 年は 8. 9% 5 年は 17. 4% 上がった。1 年と 6 年はとっていなかった。	全教員で 1 人 3 人までの少人数に絞って濃い個別学習ができた。教科指導専門員の先生にも担当していただいた。個々の課題を用意しきれない実態があったので来年度は、単元別に日程を組み、実施していく。	○
新規	保護者への啓発 及び協働の促進	全学年	通年	学習習慣の確立 ・学年×10分+10分の家庭学習時間の見守り ・家庭学習ノートの活用	保護者アンケートを 2 回(7・11 月)実施	2 回目のアンケート実施により、学習習慣向上率を 10%アップ	「家庭学習の習慣は身につきましたか」の問いに、72%が当てはまる、だいたい当てはまると答えた。(前期の項目に入らなかったため、比較はできない)	アンケートの時期が当初の予定とずれてしまった。来年度は啓発資料に工夫を加え、学習習慣を付けていく。	△

改善	基礎的・基本的な内容の理解の徹底	全学年	通年	各教科の学習内容の定着 ・確認テストの実施 ・足立スタンダードに沿ったノート指導 言語活動の充実 ・国語以外でも文章を書く機会（振り返りを記入する等）を必ず設ける。 主体的・対話的で深い学びの充実 ・授業での対話的な時間の確保	区学力調査、年度末の目標通過率 80%以上	区学力調査後に9月と1月に確認テストを実施 各回 10%アップ	4月に実施した区学力調査の再テストでは2教科平均 89.9%の通過率になり、プラス 14.5%になった。現在の学年の区調査の結果は、1年～5年は、2教科平均 80.3%。6年は2教科平均 71.8%となった。（1年から6年では 78.8%。）	全学年、足立スタンダードに沿ったノート指導を実施している。どの教科でも学習の振り返りをして、次時に生かすことができるよう、引き続き取り入れていく。対話的な学びも多く取り入れるようになっており、グループでの話し合いも2年生以上はよく取り入れている。後は、成果を出すのみである。	○
継続	小中連携による合同研究	全学年	通年	・合同学習指導案作成研究会(8分科会別・2回)。 ・合同研究授業(8分科会別・2回)。 ・全体協議会(2回)	小2校・中1校による合同研究会を6回以上実施。	予定回数の実施と全体協議会後の自己評価率の向上。	年間6回の研修会(授業は、年3回)、児童・生徒の交流活動を年2回実施。8分科会2回の研究授業と授業後に全体会も実施。	年間を見通した教科の系統性や指導法理解に向けた授業研究になるよう、計画を立てていく。	○
継続	教員の指導力向上	全学年	通年	・講師を招聘しての校内研究授業(3回) ・年次研修への全員参画(1～4年次) ・授業力向上研修会7回以上実施 ・足立スタンダードを基本とした授業力の向上、教科指導専門員と管理職による授業観察 ・足立スタンダード、活用力向上研修会への参加 ・区小研への全員参加	授業研究・研修会を7回以上実施。	指導案作成、授業観察により授業力を評価。 年度末までに教諭層は15回以上、主幹・主任層は3回以上の授業観察	校内研では6回の授業公開と講師の先生によるご指導、また、「民間機関を活用した小学校英語の効果的な指導方法等開発研究」では、21回の公開授業と年4回の研修会で講師の先生から直接ご指導。教科指導専門員と管理職による授業観察実施。教諭層は事前・授業・事後と各20回ずつ計60回、主幹・主任層も3回は授業観察をしていただいた。	学級会活動と外国語活動だけにとどまらず、他教科の授業力向上にも役立った。	◎
継続	体験的活動の充実	全児童	通年	・国際理解教育、キャリア教育、オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・外部人材の活用・外部機関との連携 ・伝統的文化に触れる活動(落語・将棋・百人一首・俳句等)	各学年3回以上、学校全体2回以上実施。	振り返りカードによる記述評価。	各学年3回以上、学校全体2回以上実施できた。生活科や社会・総合的な学習の時間での地域人材や地域教材、外部機関との連携学習を各学年2回以上実施することができた。	地域の人材を巻き込むことができたのは、次年度からの学習に大いに役立つ。今後は、学習計画や内容等を記録し、次年度に役立てていくことが課題である。百人一首も検定の方法が整った。	◎

重点的な取組事項－2		健康な心身の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他を認め尊重する態度、あたたかな人間関係を各学級基盤に定着させる。年間を通した体力向上へ向けての取組を積極的に行う。		学校評価アンケート「児童の様子」の肯定的評価 90%以上。都体力調査、全学年男女都平均以上。	学校評価アンケート「児童の様子」の肯定的評価 93%。都体力調査は2年男子を除いた全学年都の平均を最大で4.8、最小で0.1下回った。	様々な課題には組織で対応してきた。引き続き、あたたかな人間関係を築いていく。 体力テストの結果に基づき、課題がある種目を重点的に日常の体育の授業の始め5分間に取り入れ、日常的に体力向上に力を入れていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶の励行	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時や来校者への挨拶の徹底。 ・家庭・地域への啓発。 	2回目の保護者アンケート評価は、75%が肯定的。来校者への挨拶にまだ課題が残るためと考える。	毎朝校門で生活指導委員会の児童と共に挨拶を実施。地域の方にも大きな声で挨拶する中で、地域の方も返してくれるようになった。定着してきた児童を手本に、引き続き指導していく。	○
いじめの根絶・不登校の解消	いじめの解消 100% 不登校の解消 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活性化 ・スクールカウンセラー・関連機関との連携 ・道徳授業、学級活動の充実 	いじめの解消 100% 不登校の解消 100% いじめ防止対策委員会・特別支援校内委員会を毎月1回開き、いじめや不登校等の解消率を100%にした。	道徳の授業や学級活動の授業を充実させ、思いやりの心を育成。全校朝会の校長講話で、人権やいじめ防止等の話を6回実施。引き続き、組織で対応していく。	◎
体育的活動の充実	体力向上への全校的取組、年間4回以上	<ul style="list-style-type: none"> ・長縄・短縄・マラソン旬間・投てき ・校庭遊びの奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ・長縄・短縄・マラソン旬間に工夫を加え、全校で楽しみながら取り組めるように実施した。投てきには、全校一斉には取り組めなかったが、各学級で取り組んだ。 	例年通りではなく、全校が一体感を持って取り組めるよう改善して取り組んだ。苦手な運動については、体育の授業の始め5分間に取り入れるようにし、周知して実施したが、徹底が図られず、担任裁量になっていたため、今後はしっかり取り組ませていく。	○

重点的な取組事項－3		家庭・地域との連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識をもつ。		学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価 85%以上	学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価 77%。	地域人材はもとより、外部機関との連携も多々実施したが、保護者には実感として伝わっていない部分があった。今後活動を保護者にも広めていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者による年間 2 回の学校評価の実施	2 回の学校評価アンケートの平均回収率 70%以上	・夏休み前・冬休み前の年 2 回アンケートの実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善	平均回収率は前期 69.6%から後期 79.6%になった。	「課程や地域の声を学校は受け入れ改善していますか」の項目において、当てはまる、だいたい当てはまるとの回答が、70%から 80%になった。引き続き、地域・保護者の声を取り入れて教育活動をすすめていく。	○
P T A ・地域行事等への教職員の参加・協力	全教職員が年間 2 回以上いずれかの行事に参加	・ P T A まつり、地域行事、開かれた学校づくり協議会活動等への計画的な参加	年間 1 回以上は全教職員が参加した。2 回以上参加は 70%しか達成しなかった。	働き方改革もあり、全教職員 2 回以上は無理があったので、今後は、年 1 回は必ずということにしていく。	△
幼稚園・保育園との連携	1 幼稚園・1 保育園との連携活動の推進	・ 公立保育園への全員参観、交流活動、行事への参加、教員の交流研修等の計画的な実施	公立保育園への全員参観は実施した。また、計画的に交流活動、行事への参加、教員の交流研修等を実施することができた。	保育参観を通して、実情を深く知ることができ、接続教育の共通理解を進めることができた。	◎
地域学習の充実	各学年 2 回以上実施	・ 1, 2 年・・・生活科での公園探検や地域探検、3～6 年・・・社会、総合的な学習の時間での地域人材や外部機関との連携学習	各学年 2 回以上実施した。地域人材はもとより、外部機関との連携も多岐にわたって実施した。	2 年の町探検、3 年は町との関わり、4 年は地域の福祉施設との関わり、6 年はキャリア教育で保護者や地域の方との関わり等、今年度新たな試みを実施した。来年度につなげていきたい。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

児童も教職員も一つ一つ、やるべきことを丁寧なことを常に意識して日々努力を重ねてきた。学力向上の取り組みでは、年度途中から「放課後けやき」を制度化したが、教員の理解と協力により児童に成果が表れ、児童から「〇〇ができるようになった。」「完璧です。」等の声上がるなど、対象児童の自己肯定感は高まったと感じる。学力向上に向けての取り組みは、来年度も継続して実施していく。あいさつの取り組みでは、登校時はできても校舎内や来客等にはなかなかできない実態があるので、来年度は方法を工夫して強化していく。また、体力向上に向けても年間を通した向上策を取り入れ、向上を図っていく。児童同士のトラブル等もあったが、校内委員会をすぐに開き、組織的に対応を重ねてきた。保護者の皆様のご理解とご協力もあり、解決に至っている。今後も心の教育の充実を図っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

教員は日々授業改善しながら、毎日の授業に取り組んでいます。また、多くの学習ボランティアさんご協力のおかげで、毎日の授業も個々の児童に手厚い指導が可能となっています。放課後補充教室である「放課後けやき教室」では子供たちと個別に向き合い、基礎・基本の定着に努力しております。4月の学力調査は前年より下がりましたが、日々の地道な取り組みの成果が出て、12月の再調査では約89.9%の児童が前年度までの学習内容をクリアしました。今年度より、開かれた学校づくり協議会の皆様のご協力の下、栽培委員の児童と共に花いっぱい活動に取り組みました。また、児童の活躍の場を広げる意味で百人一首の検定制度を整えました。100首合格して認定証を受け取った児童もおります。生活科や総合的な学習の時間では、地域に出かけたり地域の皆様のご協力を得たりと、活動の範囲を広げ、「地域の中の渚江小学校」として活動させていただきました。来年度は、朝のあいさつ運動も充実させていく予定であります。「笑顔あふれる渚江小」を常に目標に掲げ、進化し続けたいと考えています。

(3) その他（学校教育活動全般について）

「当たり前のことを当たり前にする」そのために、「あ・い・う・え・お」を大切にしていきたいとスタートしてこの1年。高学年がお手本を示し、リードしてきた。今年度は、音楽会という大きな行事に向け、どの学年も心を一つにして取り組み、最高の音楽を演奏できたことは児童にとって大きな自信となり成長につながった。4月の学力調査結果は、芳しくなかったが、1月の再調査では、約9割の児童が目標を達成した。生活面では、相手の気持ちに立てず友達を傷つけてしまうことや言葉の使い方が乱暴になる場面も見られた。今後も組織的に対応と指導を行い、あたたかな人間関係を育んでいく。本校の伝統である、「落語・俳句・将棋・百人一首」には多くの方が関わってくださるのおかげで、児童も活躍の場を広げている。今後も、児童の興味を広げていくとともに、保護者・地域の皆様との連携を密にし、協力をいただきながら、学校・保護者・地域が一つになって「笑顔あふれる渚江小」にしていく。そのために、日々生じる課題に迅速に対応しながら、変化の激しい時代を見据えて行事の精選や活動の見直しも行き、持続可能な活動を模索していきたい。